

眼底検査とは

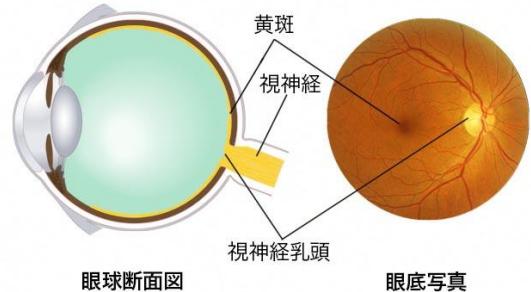
目の奥に光を当てて網膜・視神経乳頭・目の中の血管を直接観察する検査です。

検査されたことのある方は、「まぶしい検査」と記憶されているかもしれません。

眼底検査でわかる病気

①緑内障

眼圧が高くなることによって視野が狭くなったり、部分的に見えなくなったりする病気です。（日本人の失明する原因第一位）



②糖尿病網膜症

糖尿病の合併症で、自覚症状がないまま眼底出血が起こり、進行すると視力が低下し失明する可能性があります。

③加齢黄斑変性

加齢に伴い、網膜の中心である黄斑に出血やむくみをきたし、視力が低下する病気です。

④白内障

加齢によって水晶体が白く濁り、目がかすんで見えにくくなる病気です。

⑤網膜剥離

網膜が剥がれ、視野が欠けたり視野が低下したりする病気です。

⑥網膜血管の動脈硬化・閉塞（眼底出血）

体の外側から血管が直接見える唯一の場所で、全身血管の状態が予測できます。

目の病気は自覚症状が無い場合もありますので定期的に検査を受けることが大切です。

発行日：11月20日

発行人：落合